

令和8年度 近畿大学大学院 商学研究科 博士後期課程

社会人入学試験問題〔専修科目〕小論文

2025.9.13 (土) 実施

受験番号	氏名		得点	

科目名	キャリア開発特殊研究
-----	------------

下記の問題に答えなさい。

【問題】

ダグラス・ホール (Douglas T. Hall) の提唱したプロティアン・キャリア (protean career) について説明しなさい。その際、①アイデンティティ (identity) と②アダプタビリティ (adaptability) という概念についても触れなさい。

(解答例)

プロティアン・キャリア (protean career) は、ダグラス・ホールが 1970 年代に提唱したキャリア概念であり、従来の組織依存的な「伝統的キャリア (組織キャリア)」に対して、個人が主体的に設計し、自らの価値観に基づいて柔軟に形成していくキャリアを指す。変幻自在のギリシア神プロテウスにちなんで、変化に応じて姿を変えるキャリアを表しており、組織の安定的かつ年功的なキャリアが揺らぐ現代において、個人の価値観やライフスタイルを重視し、自律的に学習・成長していく姿勢を重視するキャリア概念である。

このプロティアン・キャリアの理解において鍵となるのが「アイデンティティ (identity)」と「アダプタビリティ (adaptability)」である。まず、アイデンティティとは「自分は何者であり、何を大切にするのか」という内的な意識・価値観の明瞭さである。従来の外部からの評価や肩書きなどに依存せず、自己実現や内的満足を重視する点が特徴である。プロティアン・キャリアを歩む人は、自らのアイデンティティを継続的に探求し、環境変化の中でも自分らしい選択を可能にする。

次にアダプタビリティは、環境の変化や予期せぬ状況に柔軟に対応する能力である。ホールはこれを「適応コンピタンス」と「適応モチベーション」の二側面から説明している。前者の適応コンピタンスはさらに三つの要素から成り立つ。すなわち、①自己のアイデンティティを見つめ直し、継続的に更新する「アイデンティティの探求」、②経験から学び行動を修正する「反応学習」、③異なる役割や経験を結び直し、アイデンティティとの整合性を生む「統合力」である。これらが、変化の中で実際に行動を起こす力の基盤となる。一方の適応モチベーションは、自らの価値観に基づいて、変化に挑む主体的意欲を意味する。

このようにプロティアン・キャリアは、アイデンティティを軸とした自己主導性と、適応コンピタンスとモチベーションを兼ね備えたアダプタビリティの統合によって成立する。変化の激しい時代においては、外的キャリア成功 (地位や収入) よりも、内的キャリア成功 (自己実現・充実感) を重視しながら、しなやかに学び続ける姿勢こそが持続的成長の鍵となる。

(問題作成意図)

キャリア理論の代表的研究者であるダグラス・ホール (Douglas T. Hall) が提唱したプロティアン・キャリア (protean career) は、現在の環境変化の激しい時代において適用範囲が広がっている新しいキャリア理論である。そのキャリア理論を説明する際に、重要な概念の理解度を問うとともに、それらを統合し、合理的に説明できる力を問うことを意図している。